

函館市内の東側に位置する湯の川温泉は、空の玄関口である函館空港からほど近い場所にあります。函館の繁華街である五稜郭・本町エリアへは電車やバスなどの交通機関が充実しており、津軽海峡沿いの国道を走れば、陸の玄関口である函館駅や観光スポットが点在する西部エリアへのアクセスもスムーズです。さらに、2015(平成27)年3月には函館新外環状道路函館IC～赤川ICが開通し、今後はさらに函館空港ICまでの区間が計画されていることから、利便性がますます向上します。

なまらあずましいアクセス！

北海道新幹線
新函館北斗駅～函館間の
アクセス列車
「はこだてライナー」で
約17分

駅・西部エリア

湯の川温泉から
函館駅まで車で約20分、
市電、バスで約30分、
西部エリアまで車で約25分、
市電で約35分。

啄木
小公園

新函館北斗駅→

湯の川温泉

函館空港

湯の川温泉から
車で約5分、
シャトルバスで約8分。

香雪園

湯の川温泉から車で約5分、
バスで約12分、
バス停から徒歩すぐ。

トラピスチス修道院

湯の川温泉から車で約5分、
バスで約8分、バス停から徒歩10分。

湯の川温泉を拠点にすると
こんなに便利で、こんなに楽しい！

便利な市電1日乗車券をご利用ください。

温泉で癒され、歴史や豊かな自然にふれる湯の川温泉エリアを始め、観光スポットが点在する函館駅前・元町エリア、繁華街として多くの人々が行き交う五稜郭・本町エリアなど、函館の街は楽しみどころが満載。湯の川温泉から各エリアへと、のんびり、ぶらりと、さまざまな函館の魅力にふれてみてはいかがでしょうか。



湯の川温泉エリア

湯の川温泉電停
徒歩0分
足湯
徒歩7分
湯倉神社
徒歩15分
熱帯植物園



五稜郭・本町エリア

湯の川温泉電停
市電14分
五稜郭公園前
徒歩10分
五稜郭タワー
徒歩1分
五稜郭公園
徒歩1分
箱館奉行所



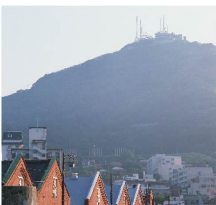
函館駅前エリア

湯の川温泉電停
市電30分
函館駅前電停
徒歩2分
函館朝市



元町・西部エリア

湯の川温泉電停
市電35分
十字街電停
徒歩5分
金森ペイエリア
徒歩15分
元町教会群
徒歩5分
函館山ロープウェイ



湯の川温泉の歴史

北海道の三大温泉郷のひとつに数えられ、癒しのひとときを求めて国内外から多くの人々が訪れてくる湯の川温泉。その発祥は江戸時代の1653(承応2)年に遡ります。この年、松前藩主九代・高広(幼名千勝丸)が難病にかかり、病は日に日に悪化を辿ります。ある夜、母の清涼院は「松前城の東にある温泉に行けば、どんな病も治る」という夢を見ました、そして、その温泉に千勝丸を湯治させると、病は間もなく全快したそうです。藩はお礼として薬師堂を再建し、金の薬師如来像と、鰐口を奉納したのが湯の川温泉の発祥と言われ、現在の湯倉神社の創建とされています。湯の川の語源は、アイヌ語の「ユ(湯)+ベツ(川)」から、というのが定説になっています。広く知られるようになったのは、明治中期になってから。それ以前の温泉は湯量が少なく、温度も低かったのですが、100度以上毎分140リットルの温泉を掘り当て、1886(明治19)年に湯治場を開業から入浴客が増えていきました。それに伴い、飲食店・宿・商店などが立ち並び、今日の温泉街の基礎が出来上がりました。



ゆのっ子 ちかつまる(千勝丸)

幼いころに湯の川温泉で湯治したという松前藩主・高広(幼名・千勝丸)がモデル。もちろん、趣味は入浴。明るく、人なつっこいのが長所ではありますが、ちょっとお人好しなところがたまにきず。好きな食べ物はマグロとイカの塩辛であり、好きな飲み物は、風呂上りにぐに良く合うコーヒーストックとカツゲンです。函館 湯の川温泉の魅力を広くPRしています。



函館湯の川温泉旅館 協同組合

〒042-0932 北海道函館市湯川町2丁目7番6号
TEL.0138-57-8988
[公式ホームページ] <https://hakodate-yunokawa.jp>
2019年11月発行



湯の川温泉の
情報は
こちらから！

HOKKAIDO HAKODATE YUNOKAWA ONSEN

北海道「函館」湯の川温泉 旅館/ホテルインフォメーション

☑️ 日帰り入浴ができる施設 ※日帰り入浴料金には消費税、入湯税が含まれております。
※宿泊料金には消費税、入湯税は含まれておりません。

- 1 ホテル雨宮館** ☑️
TEL.0138-59-1515
【お一人様】1泊軽食付：3,843円～(1室2名)
《日帰り入浴》500円、6:00～23:00
- 2 旅館 一乃松**
TEL.0138-57-0001
【お一人様】1泊2食付：14,150円～(1室2名)
- 3 イマジン ホテル&リゾート函館**
TEL.0138-57-9161
【お一人様】1泊2食付：8,000円～(1室2名)
- 4 笑 函館屋** ☑️
TEL.0138-36-2000
【お一人様】1泊2食付：12,000円～(1室2名)
《日帰り入浴》1,000円、15:00～21:00(最終受付20:00)
- 5 ホテル 河畔亭**
TEL.0138-57-0012
【お一人様】1泊2食付：8,500円～(1室2名)
- 6 ホテルかもめ館** ☑️
TEL.0138-59-2020
【お一人様】1泊2食付：6,300円～(1室2名)
《日帰り入浴》650円、5:30～9:30・13:00～24:00
- 7 KKRはこだて** ☑️
TEL.0138-57-8484
【お一人様】1泊2食付：8,800円～(1室2名)
《日帰り入浴》700円、11:00～21:00
- 8 ホテル新松**
TEL.0138-57-5558
【お一人様】1泊2食付：7,000円～(1室2～4名)
- 9 大黒屋旅館** ☑️
TEL.0138-59-2743
【お一人様】1泊2食付：7,000円～(1室2名)
《日帰り入浴》500円、6:00～24:00
- 10 ホテルテトラ 湯の川温泉** ☑️
TEL.0138-59-4126
【お一人様】1泊2食付：6,800円～(1室2名)
《日帰り入浴》500円、13:00～22:00

- 11 湯元 啄木亭** ☑️
TEL.0138-59-5355
【お一人様】1泊2食付：10,000円～(1室2名)
《日帰り入浴》900円、13:00～21:00(時間変更あるため要電話確認)
- 12 HAKODATE海峡の風**
TEL.0138-59-1126
【お一人様】1泊2食付：18,000円～(1室2名)
- 13 望楼NOGUCHI函館**
TEL.0138-59-3556
【お一人様】1泊2食付：37,000円～(1室2名)
- 14 竹葉新葉亭**
TEL.0138-57-5171
【お一人様】1泊2食付：19,800円～(1室2名)
- 15 花びしホテル**
TEL.0138-57-0131
【お一人様】1泊2食付：10,000円～(1室2名)
- 16 ホテル万惣** ☑️
TEL.0138-57-5061
【お一人様】1泊2食付：12,500円～(1室2名)
《日帰り入浴》※不定休のため要電話確認 <平日料金>ご利用料金：大人様お一人様 1,250円、お子様お一人様 550円
<休前日・休日・夜日のご利用料金>ご利用料金：大人様お一人様 1,800円、お子様お一人様 825円
- 17 湯の川観光ホテル祥苑**
TEL.0570-030-780
【お一人様】1泊2食付：7,800円～(1室2名)
- 18 湯の川プリンスホテル渚亭**
TEL.0138-57-3911
【お一人様】1泊2食付：14,800円～(1室2名)
- 19 湯の浜ホテル** ☑️
TEL.0138-59-2231
【お一人様】1泊2食付：8,000円～(1室2名)
《日帰り入浴》1,000円、13:00～20:00
- 20 割烹旅館 若松**
TEL.0138-59-2171
【お一人様】1泊2食付：25,000円～(1室2名)

湯の川温泉

なまらあずましい。



【なまらあずましい】とてもいこちがい



函館
湯の川温泉
旅館協同組合



湯の川温泉へ。

ようこそ

湯の川温泉は道南を代表する温泉街として、永く市民や観光客に親しまれています。

湯の川温泉ならではの風情を感じながら、ゆっくりと湯に浸かる至福のとき。しかし、湯の川の愉しみはそれだけではありません。

歴史にふれて古(いにしえ)に思いを馳せ、街の人々の人情に心温め、美しい風景に癒されながら、美味しいものを食す。

個性あふれる街の顔をその目で見て、肌で感じ、思い出として心に残るひとときを、この街でお過ごしください。

湯の川温泉 なるほど百科



足湯

市電「湯の川温泉電停前」の目の前に設置されている足湯「湯巡り舞台」。泉質はナトリウム・カルシウム塩化物泉、市電を待つ間に、散策を楽しんだ後に一休みなど、たくさんの市民や観光客が訪れる人気スポットです。浴槽には屋根がかかっているため、雨や雪の日も天気をあまり気にせず、ゆっくりとくつろげるのも嬉しいところ。年中無休でご利用は朝9時から夜9時まで。濡れた足を拭くタオルは各自で持参ください。

●所在地／函館市湯川町1-16-5

●問い合わせ／0138-57-8988(函館湯の川温泉旅館協同組合)



温泉



古くから名湯として多くの人々に親しまれ、現在、湧出量は日量7,000トン以上の湯量を誇る湯の川温泉。箱館戦争時には、旧幕軍の榎本武揚が傷病兵を療養させ、榎本自身も入湯していたと伝えられています。温泉街には銭湯も数軒あり、湯が熱いのが特徴で愛好家も多い。

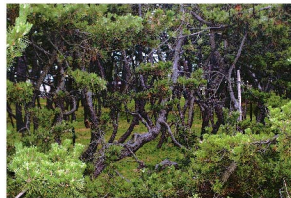


旧戸井線(緑園通)

軍事鉄道として計画された旧戸井線は、戦争での戦局悪化を受けて工事が中断し、戦後になっても再開されることはありませんでした。このまぼろしの鉄道はその後、西側はサイクリングや散策が楽しめる歩行者や自転車の専用道路に再利用され、その姿を今に残しています。



湯川黒松林



1889(明治22)年に函館の豪商・渡邊熊四郎(初代)が付近の土地を入手し、私財を投じて10数年もの歳月に渡って植林した、北海道最初の防風防砂林です。熊四郎は、故郷である沼津から20万本の苗を取り寄せました。現在はおよそ900本の黒松が残っています。

●所在地／函館市湯川町1-7-55

香雪園

函館の豪商・岩船家によって、1898(明治31)年ごろに造成されました。本格的な日本庭園となったのは、1920(大正9)年に京都から庭師を迎えてからのことです。2001(平成13)年には、北海道内の庭園として唯一の国指定名勝となり、約150種に及ぶ庭木は、カエデを中心に道内一の庭園樹種を誇ります。四季折々にその表情を変えながら、春の桜、秋の紅葉は訪れる人々を感動へと誘ってくれるでしょう。毎年秋に園内で開催されているイベントでは、幻想的で艶やかにライトアップされた紅葉を堪能することができ、さらにレンガ造りの温室や、茶室様式を取り入れた書院造りの園亭など、見どころがたくさんある憩いの空間として多くの市民に親しまれています。



●所在地／函館市見晴町56
●問い合わせ／0138-57-7210(管理事務所)



志苔館跡地

湯の川から東へ3kmほど進むと、小高い丘の上に堀と土塁をめぐらせた国指定史跡の志苔館跡があります。館跡の近くからは、3つの大壺(おおがめ)に詰められた約38万枚もの古銭(国指定重要文化財)が出土しています。丘から津軽海峡を見渡せば、函館や海岸、遠くは松前半島や下北半島も一望できます。

●所在地／函館市志海町

●問い合わせ／0138-21-3463(函館市教育委員会生涯学習部文化財課)



スポーツ施設

空港からのアクセスも良好な地に2015(平成27)年8月に誕生した多目的施設「函館アリーナ」。最新設備を揃え、5,000人収容できるメインアリーナを中心にサブアリーナ、武道館や多目的会議室などを完備しています。函館の室内スポーツの拠点として市民がスポーツと健康づくりに親しむだけでなく、大規模スポーツ大会やプロスポーツ、さらにはコンサートや各種コンベンションなど、これまで道南では不可能だった大会・イベントの開催が期待されています。2015(平成27)年7月下旬には、函館出身の人気ロックバンド・GLAYにより、こけら落とし公演が開催されました。さらに近郊にはラグビー場や函館アリーナと同時に誕生



したフットボールパークもあり、充実したスポーツ施設があります。

●所在地(函館アリーナ)／函館市湯川町1-32-2
●問い合わせ(函館アリーナ)／0138-57-3141

食べ歩き

ぶらりと街を散策しながら、美味しいものを食べてちょっと一休み。湯の川には昔ながらの味を守る老舗や人気のスイーツなど、評判を耳にして多くの人が訪れるお店が軒を連ねます。疲れた体には甘いものが一番です。モチモチの食感が特徴の「焼きたんご銀月」の串団子(ごま、しょうゆ、あんこなど)は、長年に渡って地元客や観光客に愛されており「若竹」は白花豆・抹茶・十勝小豆の三色だんごが名物。そして「コーヒールームきくち」「喫茶チェリー」は、口当たりさっぱりソフトクリームが評判のお店です。また、ちょっと小腹が空いたら「後藤精肉店」のコロッケをどうぞ。メークインを使ったコロッケはホクホクの揚げたてが一番。風情あふれる街とともに、評判の絶品グルメも堪能してはいかが。



トラピスチヌ修道院

1898(明治31)年、フランスから派遣された8名の修道女によって、日本初的女子観想修道院として創立されました。現在の聖堂は1927(昭和2)年に再建されたもので、煉瓦の外壁や半円アーチの窓など、ゴシックとロマネスクの混在するデザインが印象的な建物になっています。前庭は立ち入ることができ、院内での生活や修道院の歴史などを紹介している資料室も見学できます。トラピスチヌ修道院の向かいに位置する市民公園は「ピクニックの丘」「見晴しの丘」「ミズパショウと木の道」など、豊かな自然を満喫できる空間が形成されています。特に初夏からのアジサイ広場は見事です。



トラピスチヌ修道院
●所在地／函館市上湯川町346
●問い合わせ／0138-57-2839
市民の森
●所在地／函館市上湯川町327-1
●問い合わせ／0138-59-4472(管理事務所)

函館市熱帯植物園

多角形の園内には、約300種3,000本の熱帯植物が植えられています。アイスクリームの木やソーセージの木など、南国のめずらしい花や木がいっぱいです。12月から5月のゴールデンウィークまでは、屋外のサル山でのんびりと温泉に浸かっている可愛いサルたちの姿を見ることができ、子どもたちに大人気。親子で、そして友達と一緒に楽しめるスポットです。

●所在地／函館市湯川町3-1-15

●問い合わせ／0138-57-7833



湯の川温泉花火大会



湯の川温泉の華麗な夏の風物詩として松倉川の下流付近から打ち上げられ、津軽海峡沖のイカ釣り漁船の漁火とともに8月の夜空を彩ります。

●開催場所／松倉川下流
●問い合わせ／0138-57-8988(函館湯の川温泉旅館協同組合)

湯倉神社(湯の川温泉発祥之地)

今から約560年前、ひとりの木こりが小高い丘(現在の湯倉神社境内)の上で一休みしているとき、眼下に湯けむりが上がっているのに気づき、湧き湯を発見しました。その木こりが病気で腕を痛めたとき、湧き湯のことを思い出して湯治したところ、程なくして病気が治りました。そこで木こりが、お礼として薬師如来を刻み、祠を建てて安置したのが湯倉神社の起源であり、湯の川温泉の始まりであります。御祭神は、「大己貴神(おおなむちのかみ)」「少彦名神(すくなひこなのかみ)」で、ともに協力して日本の国造りや国土の経営を行った神とされ、五穀豊穡・家内安全・健康長寿はもちろん、縁結び・夫婦和合・安産・子育てなどその御神徳は宏大無辺なるものがあり、古くからこの地域に暮らす多くの人々に親しまれ、「心の拠り所」として篤い信仰を集めております。境内は、「湯の川温泉発祥之地碑」や「湯の川一の古木である御神木(イチイ)」「結びの銀杏・湯倉の大銀杏」「なでうさぎ神鬼」「開運小槌」など見どころが満載で、荘厳な雰囲気の中、湯の川温泉の歴史を存分に感じることもできます。

●所在地／函館市湯川町2-28-1 ●問い合わせ／0138-57-8282

